

「夢洲 IR カジノ」アセス準備書要約書の「要約」

アセス準備書は 865 ページあるが、その「要約書」は 65 ページにまとめられている。それでも長いので要約書を「要約」しておきたい。要約書は 5 項目で構成されている。1 事業の概要 2 環境影響評価実施内容の概要 3 予測及び評価の結果 4 環境保全及び創造のための措置 5 事後調査の方針

事業の概要として、事業計画地面積約 64.2ha、延床面積の合計約 848000 m²、建築物の最高高さ約 130m、想定工事期間 2024 年度夏頃から 30 年度夏頃、想定供用時期 2030 年度秋頃など。写真は本事業の対象範囲と施設配置イメージ図。敷地 A ゾーンの MGM 大阪にカジノ、劇場・、宿泊・飲食施設などが並ぶ。敷地 B はウォーターフロントゾーン。

本事業において SDGs 達成への貢献が期待される取組みが、5 ページにわたり表にまとめられている。周辺との調和、循環、生活環境、自然環境、地球環境、次世代への貢献という項目に分けて、行動計画と SDGs のゴールなどを示している。カジノが事業収益の 8 割を占める IR の行動計画が、SDGs に貢献できるのか甚だ疑問である。

3 の「予測・評価の結果」が準備書の中心であり、25 ページにわたり施設の利用に伴う影響、建設工事に伴う影響が次の項目ごとに記載されている。大気質、水質・底質、土壌、騒音、振動、低周波音、電波障害、廃棄物・残土、地球環境、気象（風害を含む）、陸域動物、海域動物、陸域植物、海域植物、陸域生態系、海域生態系、景観、自然とのふれあい活動の場、夢洲内において実施される他事業との複合的な影響。

項目ごとに「影響は、最小限にとどめるよう環境保全について配慮されており、環境保全目標を満足するものと評価する」などとしている。準備書本体では、第 5 章の最後の方に、環境影響の総合的な評価が記載されているが、要約書には見当たらない。一方、要約書の 4「環境保全及び創造のための措置」は、準備書本体の第 6 章がそのまま掲載されている。

なお、10 月 29 日にもレポートしたが、準備書本体の第 8 章「環境保全及び創造の見地からの意見と事業者見解」は、要約書にはまったく掲載されていない。第 8 章は IR カジノ事業者の本音も書かれており、参考になることが多い。

(2023 年 11 月 4 日)

